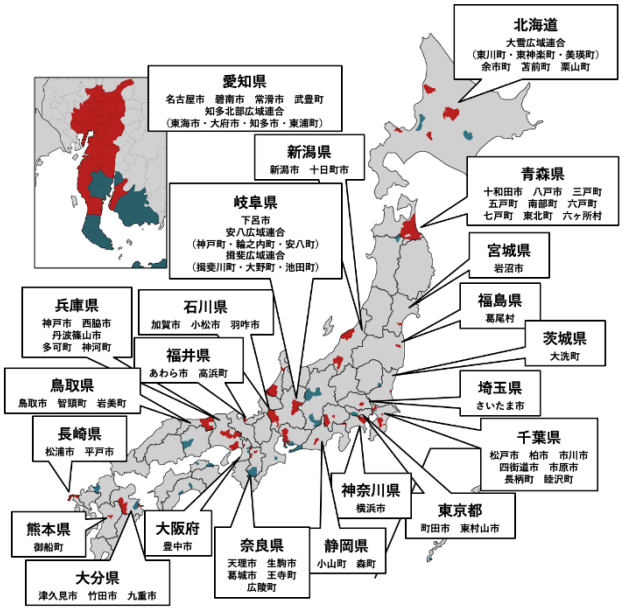
健康とくらしの調査 2022年
地域診断　概要　四街道市

JAGES（Japan Gerontological Evaluation Study，日本老年学的評価研究）は、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的としています。2022年度には、全国の75市町村と共同し、約35万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの約50人の研究者が、多面的な分析を進めています。

本概要は、JAGESが実施した「健康とくらしの調査 2022」データを用い、介護予防や地域づくりに向けた地域診断の概要をまとめたものです。

表１　健康とくらしの調査概要	
対象者	一般高齢者+総合事業対象者＋要支援者
実配布数	3,000人
調査期間	第3期 (2022/12/05-2022/12/26)
回収数（率）	2,055票（68.5%）
集計数（率）	2,018票（67.3%）*調査票番号切り取り票を除いた
調査方法	サンプリング調査

表２　全参加自治体_健康とくらしの調査概要	
対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
参加数	75市町村（66保険者）
対象者数	368,982人
配布回収	郵送法 、一部訪問調査
調査期間	2022年11月7日～2022年12月26日
回収数（率）	226,271票（63.4%）
調査方法	全数調査またはサンプリング調査



特徴・強みと課題

目的 他の市町村と比べた、特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法 JAGES2022年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国75市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果 75市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

1. 強み指標

表３　75市町村と比較した特徴・強みの指標

指標名	今回	順位	回答者数	平均値	最小値	最大値
低所得者割合(等価所得199万円以下)	40.1	4	1,721	50.8	38.6	70.1
低学歴者割合(学校教育が9年以下)	11.3	4	1,898	22.7	6.6	59.1
本屋・書店を利用する割合	39.2	4	212	27.6	5.3	43.3
経済的不安感がある者の割合	22.4	7	1,861	27.9	19.6	40.6
スポーツの会参加者(月1回以上)割合	27.7	12	1,862	23.3	6.6	37.3
30分以上歩く者の割合	77.2	12	1,880	74.1	65.2	80.4
IADL(自立度)低下者(1項目以上)割合	8.8	15	1,894	9.9	6.4	15.6
運動機能低下者割合(基本チェックリスト)	7.6	16	1,894	8.8	5.3	14.8

- 強み指標は「低所得者割合」「低学歴者割合」「本屋・書店を利用する割合」「経済的不安感がある者の割合」「スポーツの会参加者割合」「30分以上歩く者の割合」「IADL低下者割合」「運動機能低下者割合」等でした。

2. 課題指標

表４　75市町村と比較した課題指標

指標名	今回	順位	回答者数	平均値	最小値	最大値
就労していない者の割合	70.0	73	1,763	61.9	41.9	71.3
収入のある仕事への参加者(月1回以上)割合	25.5	73	1,772	32.7	24.4	46.8
認知症リスク得点(認知症リスク得点による算出)	4.1	72	1,911	3.8	3.3	4.3
社会的役割低下者割合	37.0	71	1,887	31.5	18.1	38.4
認知症リスク者(7点以上)割合	13.0	62	1,911	11.4	7.6	18.9
要支援・要介護リスク点数の平均点(要支援・要介護リスク評価尺度による算出)	16.3	62	1,918	15.7	13.2	18.5
フレイルあり割合(基本チェックリスト８項目以上)	18.7	58	1,916	17.0	12.0	23.1

- 課題は「就労していない者の割合」「収入のある仕事への参加者の割合」「認知症リスク得点」「社会的役割低下者割合」「認知症リスク者割合」「要支援・要介護リスク点数の平均点」「フレイルあり割合」等でした。

特徴・強みや課題と関連する要因

目的 どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

方法 JAGES2022年度調査に参加した75市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

結果 特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがあることがわかりました。

1. スポーツの会参加者が多いと、運動機能低下者やIADL低下者が少ない

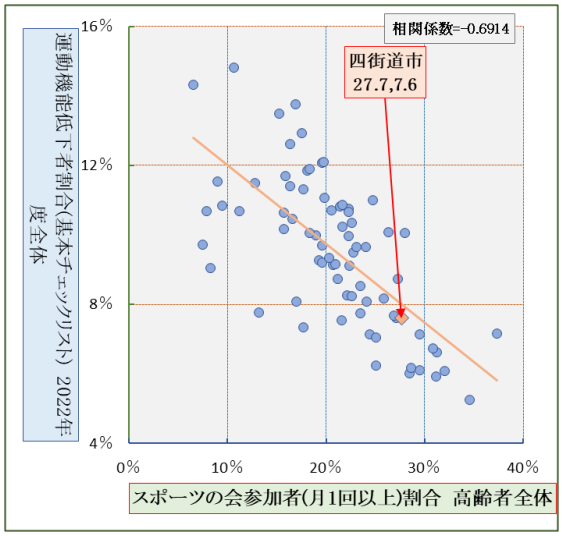


図１　スポーツの会参加者割合と
運動機能低下者割合との関連

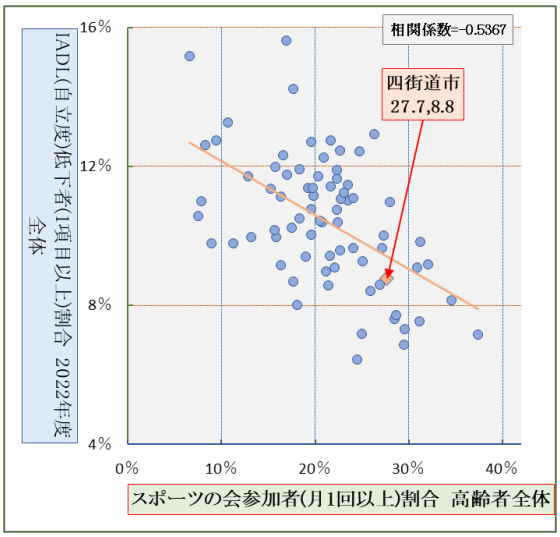


図２　スポーツの会参加者割合と
IADL低下者割合との関連

2. 30分以上歩く者の割合が多い地域は、運動機能低下者割合が少ない

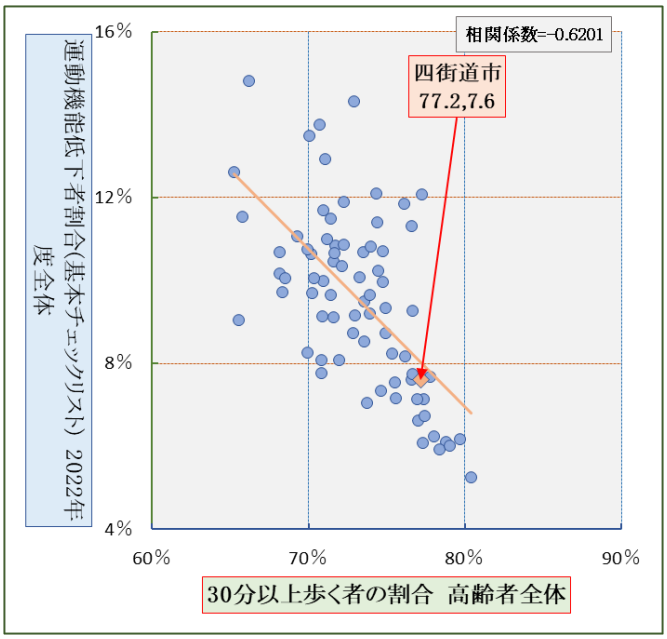


図３　30分以上歩く者の割合と
運動機能低下者割合との関連

3. 収入のある仕事への参加者割合、またはソーシャル・キャピタル得点（助け合い）が高いと要支援・要介護リスク点数の平均点が低い

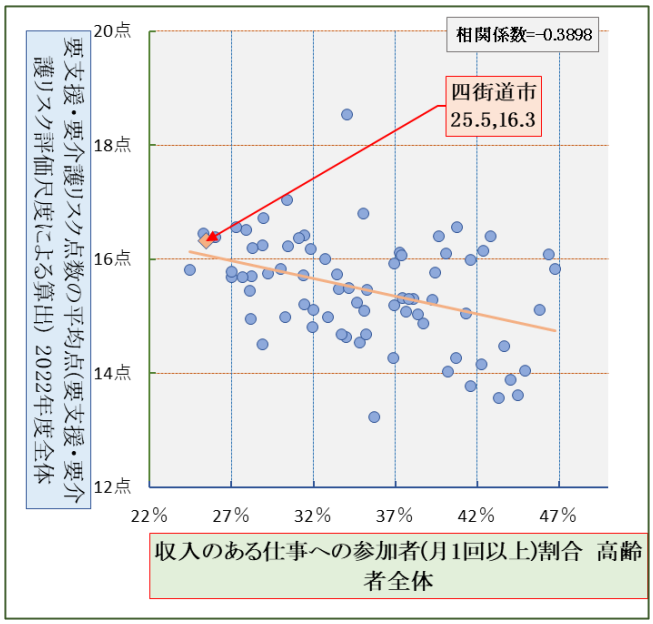


図４　収入のある仕事への参加者割合と
要支援・要介護リスク点数の平均点との関連

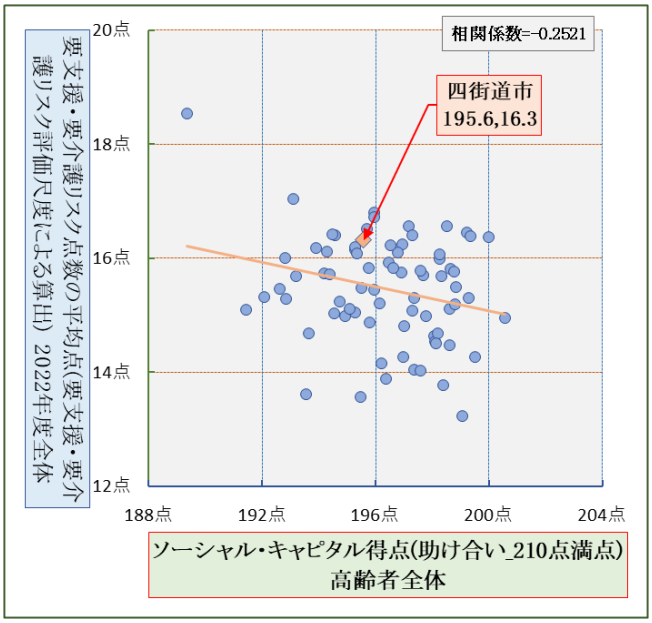


図５　ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）と
要支援・要介護リスク点数の平均点との関連

4. 閉じこもり者割合が高い、またはスポーツの会参加者割合が低いと、フレイルあり割合が高い

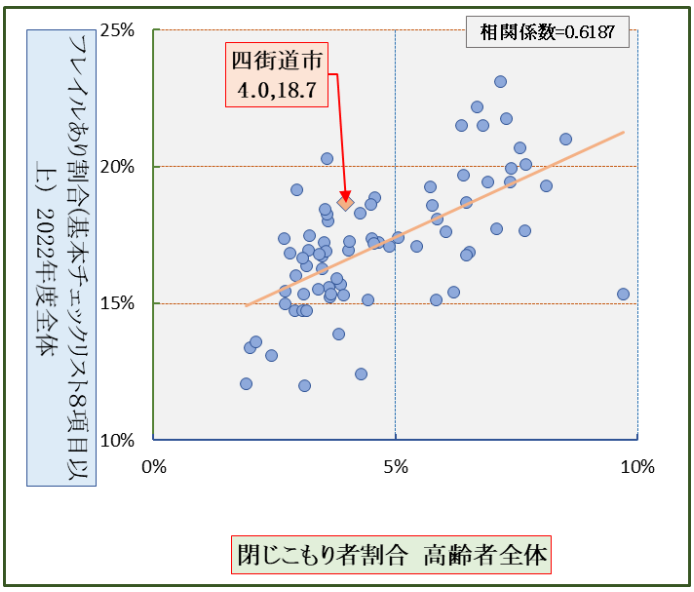


図６　閉じこもり者割合と
フレイルあり割合の関連

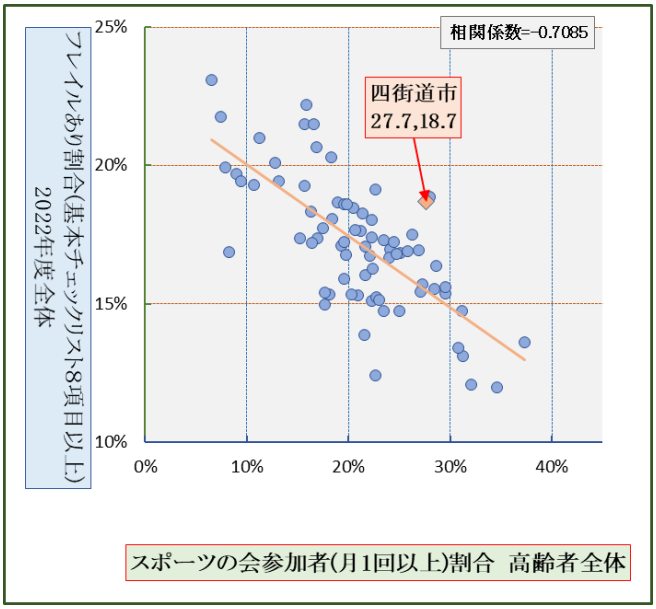


図７　スポーツの会参加者割合と
フレイルあり割合との関連

- 「スポーツの会参加者割合」や「30分以上歩く者の割合」は、「運動機能低下者割合」や「IADL低下者割合」「フレイルあり割合」等多くの健康関連指標と関連があることがわかりました。
- また、「収入のある仕事への参加者割合」や「ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）」は「要支援・要介護リスク点数」と関連していることが分かりました。また、「閉じこもり者割合」や「スポーツの会参加者割合」と「フレイルあり割合」とが関連していることもわかりました。

市町村内比較から探る重点対象地域

目的 課題だとわかった指標について、小地域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点対象地域を明らかにすることを目的としました。

方法 自治体内小地域別データを用いて、比較しました。

結果 自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

1. 要支援・要介護リスク点数の平均点の小地域比較

- 要支援・要介護リスク点数の平均点では15.2～17.4点と２点しか差がなく、75市町村と比較して62位であったことから、四街道市全体が重点対象地域と考えられます。
- わずか２点の差でしたが5小地域で比較して点数の高い（リスクの高い）地域は、千代田中学校区（17.4点）、四街道北中学校区（16.4点）、四街道西中学校区（16.4点）でした。

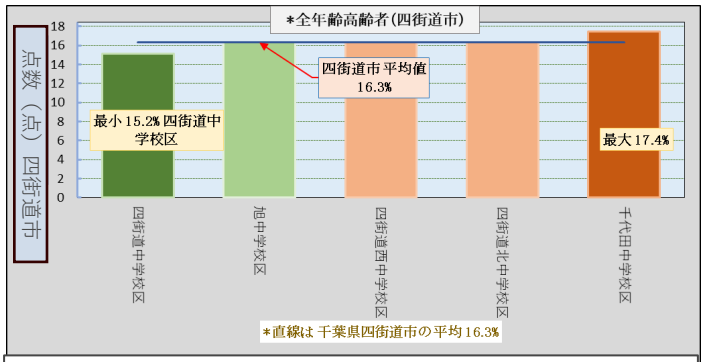


図８　要支援・要介護リスク点数の平均点

2. 認知症リスク者（7点以上）割合の小地域比較

- 認知症リスク者割合は、10.4～14.7%の小地域間格差がありました。
- 重点対象地域（下位４割）は、四街道北中学校区（14.7%）、旭中学校区（14.5%）でした。
- 手がかりは、上位4割以内の四街道中学校区（10.4%）、千代田区中学校区（11.6%）などにあると考えられます。

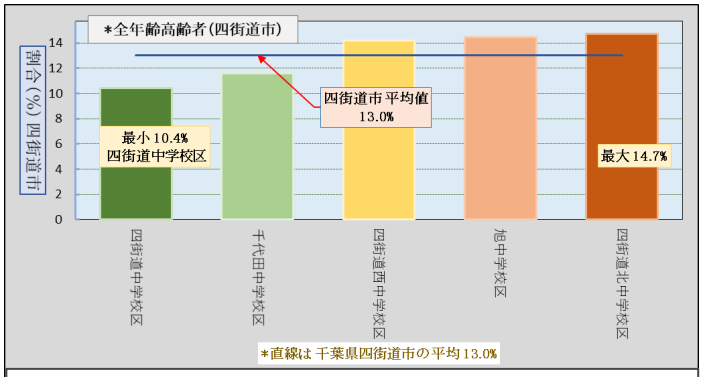


図９　認知症リスク者割合

3. フレイルあり割合（基本チェックリスト8項目以上）の小地域比較

- フレイルあり割合は、16.5～20.7%の小地域間格差がありました。
- 重点対象地域（下位４割）は、四街道西中学校区（20.7%）、旭中学校区（20.7%）でした。
- 手がかりは、上位4割以内の四街道中学校区（16.5%）、四街道北中学校区（17.1%）などにあると考えられます。

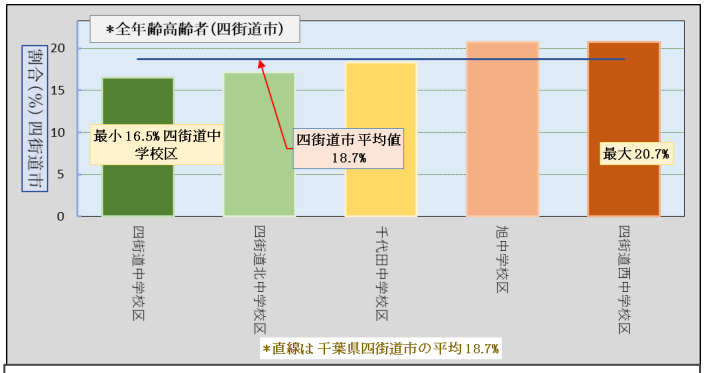


図１０　フレイルあり割合

市町村内比較から探る改善の手がかり

目的 多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小地域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。

方法 市町村内小地域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。

結果 市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

1. 「収入のある仕事への参加者割合」の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 「収入のある仕事への参加者割合」には、23.1～27.2%と4%の小地域間差しかなく、四街道市全体での課題と考えられます。
- その中でも割合が少ない重点対象地域は、 千代田中学校区（23.1%） 、四街道西中学校区（24.8%）などでした。

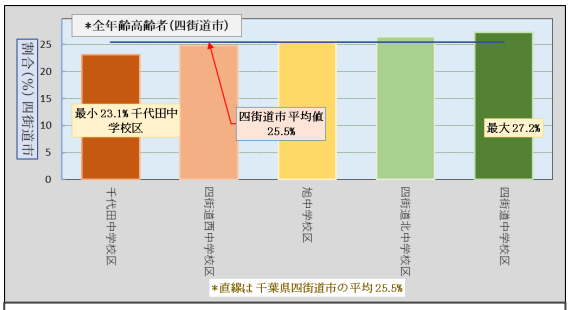


図１１　収入のある仕事への参加者割合

2. 「閉じこもり者割合」の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 「閉じこもり者割合」は、2.5～4.8%の小地域間格差がありました。
- 「閉じこもり者割合」が下位の重点対象地域は、旭中学校区（4.8%）、四街道西中学校区（4.6%）などでした。
- 手がかりは、上位4割以内の四街道北中学校区（2.5%）、四街道中学校区（3.6%）などにあると考えられます。

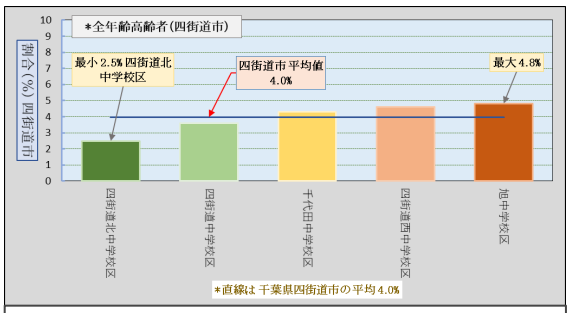


図１２　閉じこもり者割合

3. 「スポーツの会参加者割合」の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 「スポーツの会参加者割合」は、23.9～34.2%の小地域間格差がありました。
- 「スポーツの会参加者割合」が下位の重点対象地域は、四街道西中学校区（23.9%）、旭中学校区（24.5%）などでした。
- 手がかりは、上位4割以内の千代田中学校区（34.2%）、四街道中学校区（30.2%）などにあると考えられます。

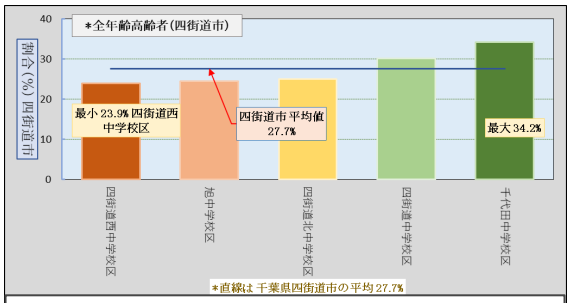


図１３　スポーツの会参加者割合

- 課題指標である「要支援・要介護リスク点数」や「フレイル割合」と関連があることがわかった「収入のある仕事への参加者割合」や「閉じこもり者割合」「スポーツの会参加者割合」の三者が下位の重点対象地域は、四街道西中学校区でした。
- 「収入のある仕事への参加者割合」や「閉じこもり者割合」「スポーツの会参加者割合」の三者が上位の地域は、 四街道中学校区でした。
- 課題解決にあたり、地域背景が似通っている地域を探すと手がかりが得られやすいと考えられます。

4.　グループ活動への参加意向がある者は3割以上

- 「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加したいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は、 59.3%と半数以上にのぼることがわかりました。
- また、「あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は38.7%でした。

表５　75市町村と比較したグループ活動への参加意向がある者の割合

指標名	今回	順位	回答者数	平均値	最小値	最大値
グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	38.7	45	1,833	39.0	27.4	54.1
グループ活動へ参加意向がある者の割合	59.3	18	1,851	55.9	44.5	65.3

4-1.　グループ活動への参加意向がある者の地域別割合

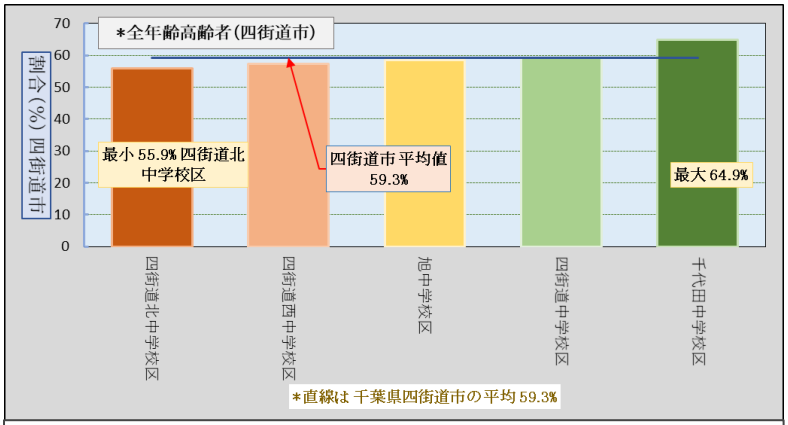


図１４　グループ活動への参加意向があるものの割合

- 「グループ活動への参加意向がある者の割合」は55.9%から64.9%の地域差が認められました。

4-2.　グループ活動（企画・運営）への参加意向がある者の地域別割合

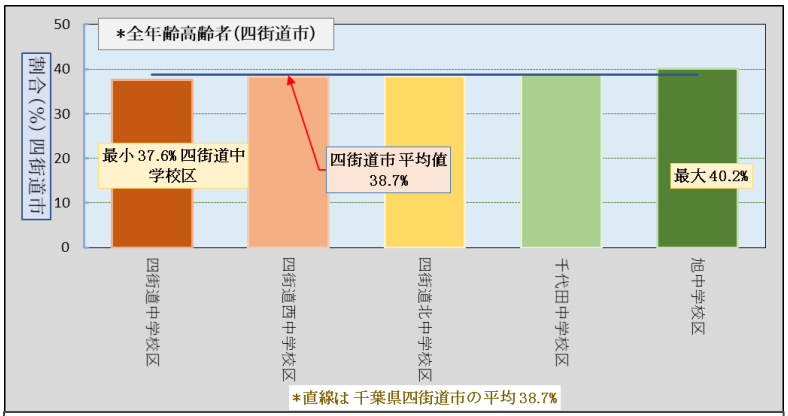


図１５　グループ活動（企画運営）への参加意向があるものの割合

- 「グループ活動（企画・運営）への参加意向がある者の割合」は37.6%から40.2%の地域差が認められました。

四街道市の地域診断　概要　2022

JAGES「健康とくらしの調査2022」に参加した75市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1　市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 特徴・強みは「スポーツの会参加者割合」や「30分以上歩く者の割合」が高いことでした。また、「運動機能低下者割合」や「IADL低下者割合」が少ない等健康関連指標が良いことが特徴として挙げられます。
- 一方、課題は、「要支援・要介護リスク点数の平均点」や「認知症リスク者（7点以上）割合」、「フレイルあり割合（基本チェックリスト8項目以上）」が高いことでした。

2　特徴・強みや課題と関連する要因

- 「スポーツの会参加者割合」や「30分以上歩く者の割合」が高いことが、四街道市の特徴・強みである「運動機能低下者割合」等、コア健康関連指標が良い一因と考えられます。これらの強みを維持するため、引き続き、「スポーツの会参加者」や「30分以上歩く者」の割合を高い水準で維持することが重要と考えられます。
- 「収入のある仕事への参加者割合」や「ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）」を増やすことで、「要支援・要介護リスク点数の平均点」を減らす可能性が示唆されました。また「閉じこもり者割合」を下げたり、「スポーツの会参加者割合」を上げたりすることにより、「フレイルあり割合」が減る可能性が示唆されました。
- 「収入のある仕事への参加者割合」が低く、「就労していない者の割合」や「社会的役割低下者割合」が高いことから、培った職能を退職後も十分に活用できていない高齢者が相当数いる可能性があります。 こうした多様な職能をもった人的資源を「ボランティア」「通いの場」参加者を増やすといった形で有効活用することは、四街道市の課題を解決する上で有用な方法の１つだと考えられます。

3　市町村内比較から探る重点対象地域

- 「要支援・要介護認定リスク点数の平均点」「認知症リスク者割合」「フレイルあり割合」が高いという健康課題について、市内に1.1～1.4倍程度の小地域間格差がありました。2つ以上の重点対象地域となったのは、「四街道北中学校区」「四街道西中学校区」「旭中学校区」でした。

4　市町村内比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- P2～３に挙げた健康課題の全国75市町村の相関関係は、四街道市５圏域でも同様に認められました。従って、健康課題の克服のための手がかりは、「収入のある仕事への参加者割合」が多い地域や、「閉じこもり者割合」が少ない地域から得られると期待できます。
- 「収入のある仕事への参加者割合」が低い重点対象地域や、「閉じこもり者割合」が高い重点対象地域の両方に該当したのは「四街道西中学校区」でした。課題解決の手がかりは、「収入のある仕事への参加者割合」が高く「閉じこもり者割合」が低い「四街道中学校区」「四街道北中学校区」にあると考えられます。
- 重点対象地域の「四街道西中学校区」でも、グループ活動の企画・運営に参加意向を示す高齢者が約4割いました。働きかければ、新しい活動が立ち上がる可能性が期待できます。

発行　日本老年学的評価研究機構（2023/07）